

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-51048

(P 2 0 0 0 - 5 1 0 4 8 A)

(43) 公開日 平成12年2月22日 (2000. 2. 22)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコード (参考)
A47G 25/12		A47G 25/12	A 3K099
			J
A45B 19/10		A45B 19/10	Z

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全6頁)

(21) 出願番号 特願平10-219223

(22) 出願日 平成10年8月3日 (1998. 8. 3)

(71) 出願人 000000561

株式会社岡村製作所

神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号

(72) 発明者 土田 孝義

神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号

株式会社岡村製作所内

(74) 代理人 100060759

弁理士 竹沢 荘一 (外1名)

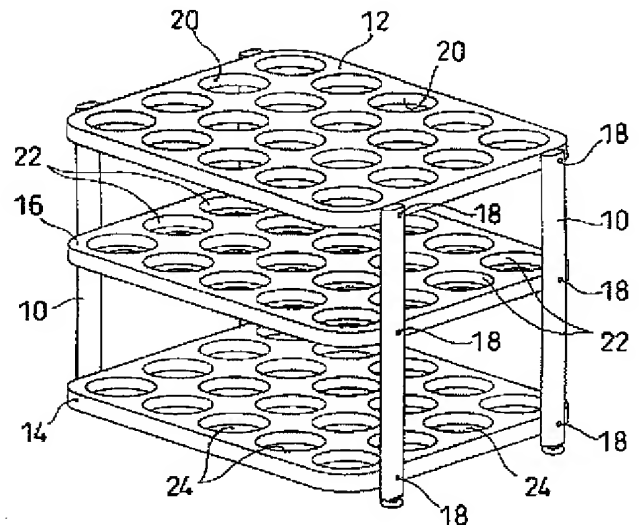
Fターム (参考) 3K099 AA24 BA02 CA03 EA14

(54) 【発明の名称】 傘立て

(57) 【要約】

【課題】 3段式の折り畳み傘を含め、傘の種類を問わず、傘を閉じた状態で取り出しやすく、かつ折り畳み式の傘を折り畳んで収納する場合でも、傘が倒れたりすることのない傘立ての提供。

【解決手段】 上面板12に傘の差込口20を設けるとともに底板14を設け、上面板12と底板14との間に中間板を配設し、この中間板に折り畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能で、かつ非折り畳み傘が通過可能な寸法を有する挿通孔22を穿設する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 傘の差込口が設けられた上面板を具備する傘立てにおいて、

前記上面板の下方に中間支持板を配設し、この中間支持板に折り畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能で、かつ非折り畳み傘が通過可能な寸法を有する挿通孔を穿設したことを特徴とする傘立て。

【請求項 2】 傘の差込口が設けられた上面板を具備する傘立てにおいて、

前記差込口に下方へ延出する有底筒状部を設け、この有底筒状部の底面に折り畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能で、かつ非折り畳み傘が通過可能な寸法を有する挿通孔を穿設したことを特徴とする傘立て。

【請求項 3】 傘の差込口が設けられた上面板を具備する傘立てにおいて、

前記上面板の下方に中間支持板を配設し、前記中間支持板に貫通孔を穿設するとともに、この貫通孔に弾性を有するフラップを取り付け、非折り畳み傘は、前記フラップを通過して挿入可能であるとともに、折り畳み時の折り畳み傘は、前記フラップの弾性力によって、前記貫通孔のフラップの表面上に支持されるようにしたことを特徴とする傘立て。

【請求項 4】 少なくとも上面板、中間支持板を、折り畳み可能に連結した請求項 1 または 3 記載の傘立て。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、傘立てに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の傘立てには、図 13 に示すように、傘の下端を受ける底板 (50) と、傘の柄部分を支持する天杵 (52) を備えたものがある。

【0003】傘には、非折り畳み式である長傘と、2 段式、3 段式の折り畳み傘とがあり、概ね 3 種類に分類できる。通常、傘立てを利用するのは、降雨時または雨がやんだ時であるため、特に 2 段、3 段式の折り畳み傘を傘立てに入れる場合には、きちんと折り畳んだ状態は少なく、図 14 に示すように、長傘 (54) と同様に、単に閉じられた状態で入れられることが多い。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかし、従来の天杵 (52) を有する傘立ての場合には、長傘 (54) 及び 2 段式の折り畳み傘 (56) は支障なく使用することができるが、3 段式の折り畳み傘 (58) を入れた場合には、傘の全長が短いために、天杵 (52) の部分で傘の柄を支持することができず、倒れたり、傘の布部分が開いてしまうという問題がある。傘の布部分が開いてしまうと、傘立てから取り出すときに、傘骨が天杵 (52) の下面に引っかかる等して、傘を取り出しにくくなる。

【0005】本発明は、従来の技術が有する上述のような問題点に鑑みてなされたもので、3 段式の折り畳み傘

を含め、傘の種類を問わず、傘を単に閉じた状態で取り出しやすく、かつ折り畳んで収納した場合でも、倒れたりすることのない傘立てを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、次のようにして上記課題を解決している。

(1) 傘の差込口が設けられた上面板を具備する傘立てにおいて、前記上面板の下方に中間支持板を配設し、この中間支持板に折り畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能で、かつ非折り畳み傘が通過可能な寸法を有する挿通孔を穿設する。

【0007】(2) 傘の差込口が設けられた上面板を具備する傘立てにおいて、前記差込口に下方へ延出する有底筒状部を設け、この有底筒状部の底面に折り畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能で、かつ非折り畳み傘が通過可能な寸法を有する挿通孔を穿設する。

【0008】(3) 傘の差込口が設けられた上面板を具備する傘立てにおいて、前記上面板の下方に中間支持板を配設し、前記中間支持板に貫通孔を穿設するとともに、この貫通孔に弾性を有するフラップを取り付け、非折り畳み傘は、前記フラップを通過して挿入可能であるとともに、折り畳み時の折り畳み傘は、前記フラップの弾性力によって、前記貫通孔のフラップの表面上に支持する。

【0009】(4) 上記 (1) 項または (3) 項において、少なくとも上面板、中間支持板を、折り畳み可能に連結する。

【0010】

【発明の実施の形態】次に、本発明に係る傘立ての実施形態を、添付図面を参照しながら説明する。

【0011】図 1 は、本発明に係る傘立ての第 1 の実施形態を示す。

【0012】図 1 の傘立ては、四隅に立設された 4 本の支柱 (10) と、上面板 (12) と、底板 (14) と、中間支持板 (16) とから構成されている。

【0013】4 本の支柱 (10) と、上面板 (12)、底板 (14) 及び中間支持板 (16) とは、ピン (18) によって連結され、図 2 に示すように、折り畳むことができるようになっている。

【0014】上面板 (12) の表面には、円形をなす傘の差込口 (20) が複数個穿設されており、これらは、図 3 に示すように、傘を差し込み易いように、やや大径に形成されている。

【0015】中間支持板 (16) の表面には、円形の挿通孔 (22) が複数個穿設され、図 4 に示すように、その径 L は、折り畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能で、かつ非折り畳み傘が通過可能な寸法に形成されている。

【0016】底板 (14) には、図 5 にも示されるように、傘の先端が当接する有底の円形の受部 (24) が凹設されており、立てかけられた傘の先端のずれを防止するととも

に、傘の布から滴下してくる水滴を受け止めるようになっている。

【 0 0 1 7 】次に、前述のように構成した本実施形態の傘立ての作用について説明する。

【 0 0 1 8 】図 6 は、本実施形態の傘立てに傘を収納した状態を示す正面図である。図 6 に示すように、長傘 (26) の場合には、上面板 (12) の差込口 (20) を経て、中間支持板 (16) の挿通孔 (22) に差し込んで傘 (26) を立て掛ける。

【 0 0 1 9 】2 段式の折り畳み傘 (28) の場合は、そのまま傘の布を閉じた状態で傘 (28a) を傘立てに立て掛けることもできるとともに、折り畳んだ状態の傘 (28b) を立て掛けることもできる。即ち、折り畳んだ傘 (28b) は、その先端が中間支持板 (16) の挿通孔 (22) を通過することができないので、挿通孔 (22) によって傘 (28b) が支持され、上面板 (12) から、傘の握り (30) を突出させた状態を保つことができる。また、傘骨が上面板 (12) の差込口 (20) の下面に引っ掛かることがないので、取り出しにくくなることもない。

【 0 0 2 0 】3 段式の折り畳み傘 (32) の場合は、2 段式の折り畳み傘と同様に、傘の布を閉じた状態で、傘 (32a) を立て掛けることができることは勿論、折り畳んだ状態の傘 (32b) を立て掛けることも可能である。この場合も、傘骨は、差込口 (20) の下面に引っ掛かることがないので、取り出しにくくなることはない。

【 0 0 2 1 】このように、本実施形態によれば、上面板 (12) と底板 (14) との間に、折り畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能な挿通孔 (22) を有する中間支持板 (16) を配設しているので、傘の種類に拘わらず、傘を閉じた状態で傘立てから取り出しやすくなるとともに、3 段式の折り畳み傘を折り畳んだ状態で収納しても倒れたりすることがない。

【 0 0 2 2 】次に、本発明に係る傘立ての他の実施形態について説明する。なお、前述した実施形態と同一の機能を有する部材については、同一の符号を付し、重複する説明を省略する。

【 0 0 2 3 】図 7 は、第 2 の実施形態を示している。この傘立ては、前述した実施形態における上面板 (12) の代わりに、枠状に形成された天枠 (31) を設け、かつ底板 (33) には、円形の受部が設けられていない点が相違する。これによれば、傘立ての構造を簡単化することができる。

【 0 0 2 4 】図 8 は、第 3 の実施形態であり、請求項 2 記載の傘立てを示す。同図に示すように、この実施形態では、中間支持板を配設することなく、上面板 (34) に差込口を兼ねる周壁 (35) を有する筒状部 (36) を形成している点が前述の実施形態とは異なる。また、底板 (38) には、円形の受部が形成されていない点も相違する。

【 0 0 2 5 】筒状部 (36) の下面には、前記第 1 及び第 2 の実施形態と同様な挿通孔 (39) が設けられており、折り

畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能で、かつ非折り畳み傘が通過可能な寸法となっている。

【 0 0 2 6 】さらに、支柱によることなく、X 字形に連結した左右 1 対の脚部 (40) (40) によって、上面板 (34) を支持するようにしている。この図 8 の実施形態によれば、筒状部 (36) を上面板 (34) に形成しているので、一つの差込口から、誤って 2 本以上の傘を差し込むといった事態を未然に防止できる利点がある。

【 0 0 2 7 】図 9 は、第 4 の実施形態であり、請求項 2 記載の傘立ての変形例である。図 9 の実施形態は、筒状部 (42) が四角形状に形成され、かつ垂直に立設された板状の支柱 (44) によって支持されている点のみが第 3 の実施形態と相違する。

【 0 0 2 8 】図 1 0 及び図 1 1 は、第 5 の実施形態であり、請求項 3 記載の傘立ての上面板の要部を示す。本実施形態は、第 1 の実施形態と比較して、中間支持板 (45) に、比較的大径の貫通孔 (46) を穿設し、この貫通孔 (46) に下方へと変形可能な弾性を有するゴム製等のフラップ (47) を取り付けしている点が異なる。フラップ (47) は、放射状に切り込まれており、長傘を中央から下方へと挿入可能に形成されている。

【 0 0 2 9 】逆に、折り畳み傘のように、先端の直径が太い傘の場合には、フラップ (47) の弾性力が勝って傘の下方への沈み込みを阻止して、図示しない上面板から傘の握り部分が突出した状態を保つため、傘を傘立てから抜き取りやすくする。

【 0 0 3 0 】第 5 の実施形態では、中間支持板 (45) に穿設した貫通孔 (46) にフラップ (47) を取り付けであるが、図 8 及び図 9 の実施形態のように、中間支持板を配設せずに、筒状部 (38) (42) の底面にフラップを取り付けても、同様な効果を得ることができる。

【 0 0 3 1 】なお、以上説明した実施形態では、底板を中間支持板の下方に配設しているが、図 1 2 の傘立てに示すように、底板を配設することなく、床、地面等の傘立て設置面を傘先端の受け部としてもよい。

【 0 0 3 2 】

【発明の効果】本発明によれば、次のような効果を奏することができる。

(a) 請求項 1 の発明によると、折り畳み時の折り畳み傘の先端が通過不能な挿通孔を有する中間支持板を配設しているので、3 段式の折り畳み傘を折り畳んだ状態で収納しても、傘が傘立ての内部で倒れることがない。

【 0 0 3 3 】(b) 請求項 2 の発明によると、傘が差し込まれる筒状部を上面板に形成しているので、一つの差込口から、誤って 2 本以上の傘を差し込むといった事態を防止できる。

【 0 0 3 4 】(c) 請求項 3 の発明によると、中間支持板の貫通孔に弾性を有するフラップを取り付けているので、非折り畳み傘をフラップを通過して底板まで挿入可能であるとともに、折り畳み時の折り畳み傘をフラップ

の弾性力によってフラップの表面上に支持することができ、3段式の折り畳み傘を折り畳んだ状態で収納しても傘立てで内部で傘が倒れるのを防止できる。

【0035】(d)請求項4の発明によると、上面板、中間支持板を、それぞれ折り畳み可能に連結しているのので、傘立て本体を折り畳むことができ、収納時の利便性が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1の実施形態の傘立てを示す斜視図である。

【図2】図1の傘立てを折り畳んだ状態を示す斜視図である。

【図3】図1の傘立ての上面板における差込口の概略断面図である。

【図4】図1の傘立ての中間支持板における挿通孔の概略断面図である。

【図5】図1の傘立ての底板の受部の概略断面図である。

【図6】図1の傘立ての使用状態を示す正面図である。

【図7】第2の実施形態の傘立てを示す斜視図である。

【図8】第3の実施形態の傘立てを示す斜視図である。

【図9】第4の実施形態の傘立てを示す斜視図である。

【図10】第5の実施形態の傘立てにおける中間支持板付近の概略平面図である。

【図11】図10の傘立ての中間支持板における貫通孔の概略断面図である。

【図12】第1の実施形態の傘立ての変形例を示す斜視図である。

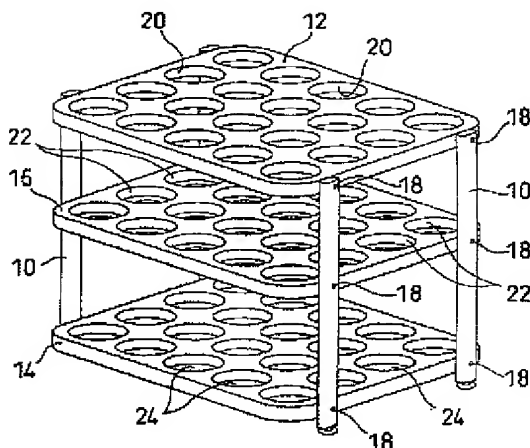
【図13】従来の傘立ての斜視図である。

【図14】従来の傘立ての使用状態を示す正面図である。

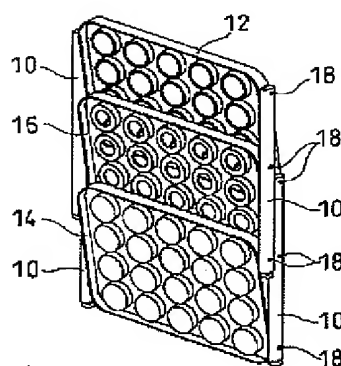
【符号の説明】

- (10) 支柱
- (12) 上面板
- (14) 底板
- (16) 中間支持板
- (18) ピン
- (20) 差込口
- (22) 挿通孔
- (24) 受部
- (26) 長傘
- (28) (28a) (28b) 2段式の折り畳み傘
- (30) 握り
- (31) 天杵
- (32) (32a) (32b) 3段式の折り畳み傘
- (33) 底板
- (34) 上面板
- (35) 周壁
- (36) 筒状部
- (38) 底板
- (39) 挿通孔
- (40) 脚部
- (42) 筒状部
- (44) 支柱
- (45) 上面板
- (46) 貫通孔
- (47) フラップ

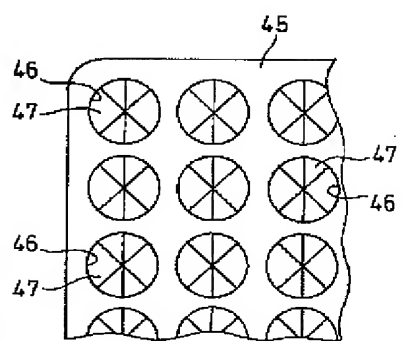
【図1】



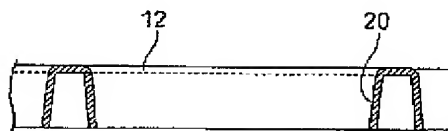
【図2】



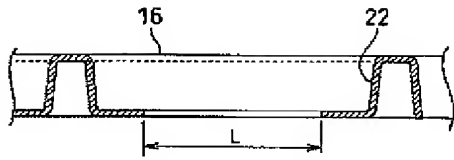
【図10】



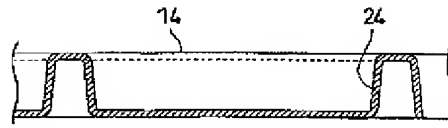
【図3】



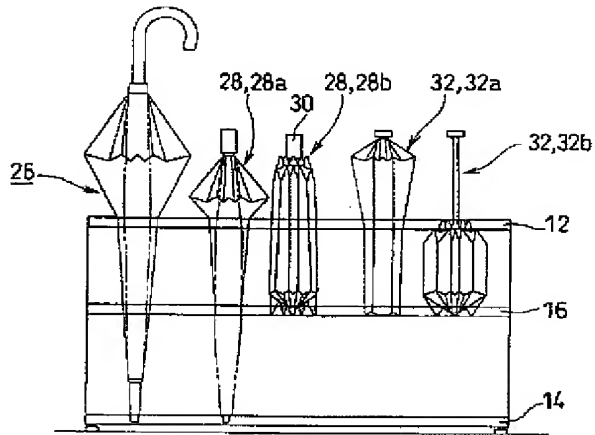
【図 4】



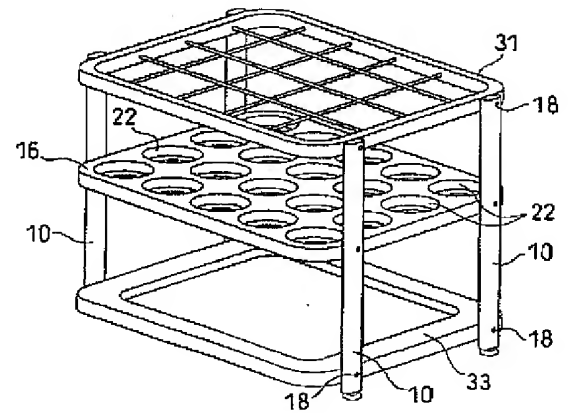
【図 5】



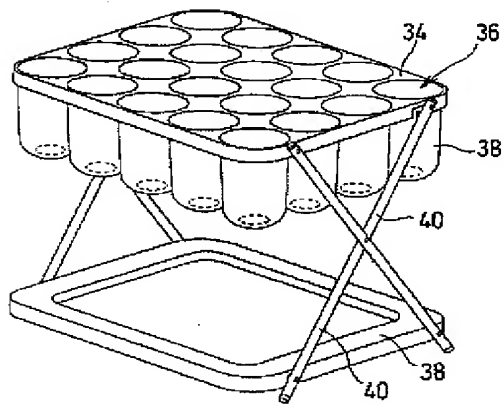
【図 6】



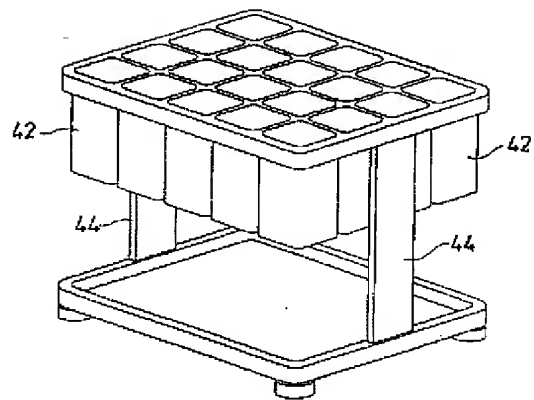
【図 7】



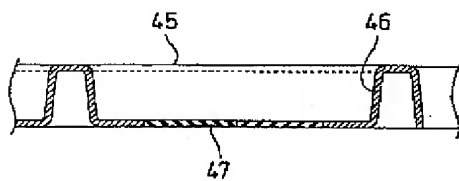
【図 8】



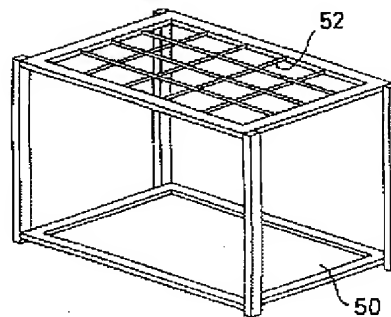
【図 9】



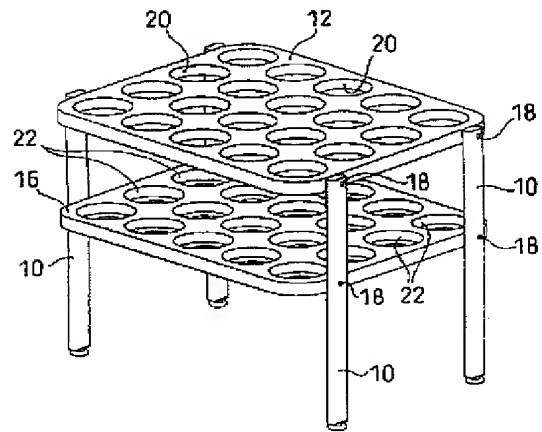
【図 11】



【図 13】



【図 12】



【図 14】

